

会員のば

誕生カード

札幌市医師会
佐川昭リウマチクリニック

佐川 昭

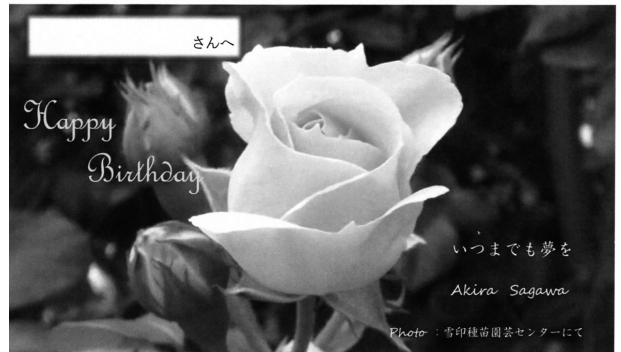
何年か前から患者さんに誕生カードを渡している。自前の写真に短いメッセージを載せたL版サイズのカードである。毎年図柄を変えて渡し、それぞれの誕生日に一番近い受診時に渡すことにしている。

今年は、雪印種苗園芸センターで撮った優しいピンク色の薔薇を使った。本人の名前を書いて渡すと、皆一様に「誕生日はもう要らない」「年は取りたくない」と言う。しかし、生きているからこそ年は取れるので、年が増えないのは生きていないからと話す、やはり生きて年を取るの大事なことと気が付くのである。ここで単に年を取るのを嫌がるのではなく、病気を持ちながらも無事に誕生日を迎えて元気に通って来られることを幸せに思い、年を重ねることの重要性・尊さに気付いてもらいたいのである。

そう言いながらも、実はこの綺麗な毎年もらうカードを大事に取ってあるというのだ。なーんだ、実は次のカードを貰うのを楽しみにしていたのだ！ それぞれに部屋に飾ったり、カード入れにしまったりと、大切に保管してくれているのだ。友人が来て見てくれ、「いい先生に診てもらっているんだね！」と言われるという。「自分の誕生日を祝ってくれるのは先生だけだ」という人もちらほらいる。

年に1回のこのカードだけでこんなに世界が広がっているのだと知ると、もう後戻りすることはできない。来年のデザインの題材は何にしようかと悩んでしまう。皆の期待に応えなければならないからだ。因みに今までは、自宅庭の様子の美しい薔薇の花やカナダのオーロラは妻の作品だ。その後は私の作品のみとして（いつも奥さんのですか？と言われるのに年甲斐もなくジェラシーを感じて）、コルチカムの花や自宅庭の勿忘草を使っている。去年は、藻岩山山道に咲くミドリニリンソウを用いた。普段は白い花だが、まれに200～300に1つくらい（私の勝手な試算）ミドリの花びらのものがあり、あなたと

同じくらい貴重なものだと言って渡すとその場はさらに盛り上がり、看護師さんの目が気になってくる。ああ、診療が遅れてしまう！ こんなスリル的な瞬間も私の楽しみとなっているのである。



雪印種苗園芸センターにて



ミドリニリンソウ



Aさんと

※ご本人の許可を得ています